

米雇用統計、量的緩和縮小は前倒しか

ポイント① 雇用統計は予想外の結果

12月3日に発表された11月の米雇用統計は、強弱入り混じる結果となりました。非農業部門就業者数は前月比で21万人増加と、今年最も小幅な伸びとなりました。一方、失業率は10月の4.6%から4.2%と市場の予想以上に低下し、労働市場のひっ迫が示唆されます。そのため、平均時給の増加率は前年同月比で4.8%とパンデミック前の水準を上回っており、今後のインフレ圧力に繋がりそうです。

ポイント② 人手不足も、景況感是好転

業種別では、運輸・倉庫業は約5万人増、建設業は3.1万人増加しました。娯楽・ホスピタリティー業界の雇用は2.3万人増加と、これまでと比較して大幅に減速しましたが、11月の米ISM（サプライマネジメント協会）非製造業景況感指数は過去最高を更新しており、需要が供給を上回り続けていることから、人手不足が課題となっています。製造業の雇用は3.1万人増加と前月から鈍化していますが、供給制約はやや緩和されているようです。ただし、新型コロナウイルスの新変異株であるオミクロン型の状況によっては、人手不足が加速する恐れがある為、今後の米国内での感染状況には注意が必要です。

ポイント③ FRBの方針には影響なしか

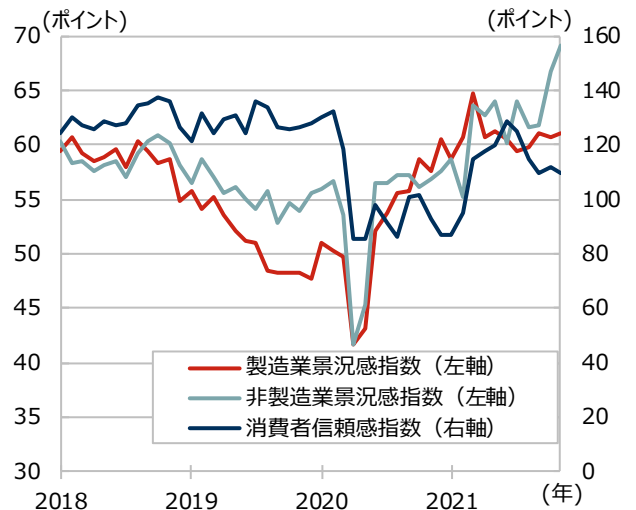
今回の雇用統計を受け、米国株は一時上昇したものの、11月のオミクロン型の出現やパウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長のタカ派シフト等への警戒から、株価は反落しました。FRBは足元のインフレをこれまで以上に問題視していることから、雇用統計の結果を踏まえても、量的緩和の縮小を前倒しする可能性が高い為、次回14-15日のFOMC（米連邦公開市場委員会）に注目です。

米国の失業率と非農業部門就業者数

	失業率 (%)	労働参加率 (%)	非農業部門就業者数 (万人)	
			総数	前月比増減
2020年				
11月	6.7	61.5	14,281	26.4
12月	6.7	61.5	14,250	-30.6
2021年				
1月	6.3	61.4	14,274	23.3
2月	6.2	61.4	14,327	53.6
3月	6.0	61.5	14,406	78.5
4月	6.1	61.7	14,433	26.9
5月	5.8	61.6	14,494	61.4
6月	5.9	61.6	14,590	96.2
7月	5.4	61.7	14,699	109.1
8月	5.2	61.7	14,748	48.3
9月	4.8	61.6	14,786	37.9
10月	4.6	61.6	14,840	54.6
11月	4.2	61.8	14,861	21.0

(注) 労働参加率=労働人口/生産年齢人口
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM景況感指数と
コンファレンスボード消費者信頼感指数



期間：2018年1月～2021年11月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント
12月10日 米消費者物価指数 (11月)
12月15日 米金融政策発表